

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200438		
法人名	医療法人 六峯会		
事業所名	グリーンピースあま城 (あさひユニット)		
所在地	倉敷市藤戸町藤戸1406-1		
自己評価作成日	H28年7月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivgoVoCd=3390200438-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景が残る環境にあり散歩時には思い出話が出る。ベテラン主婦の職員は、3食の手作り料理はお手の物でホームの菜園の収穫物を利用して、好みに合わせたメニューに変わる。台所仕事や掃除等の出来る事を職員と一緒にしている。毎月の話し合いでは、その人に合った暮らしや楽しみを実現する為に意見を出し介護計画に反映している。ご家族、親戚の方が訪問し易く要望を出しやすい雰囲気や関係作りを心掛けている。外食や秋の小旅行はとても喜んで頂いている。看取りの要望があれば医療機関と連携体制を取り、ご家族と共に条件を整えていきます。そして食事前には口腔体操、食後には口腔ケア又、週に1回は歯科衛生士、月に2回の歯科医の来訪で口腔管理には力を入れている。「夏の夕べ」のイベントではご利用者、ご家族、地域の方、職員と一緒にの食事で親睦を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の間関係は大変良好である為、事業所の雰囲気は明るく、大変良い。職員は利用者を大切に思い、出来る限り寄り添い、さみしい思いをさせない様にしている。最期まで利用者の世話をしたいと考え、看取り支援を実施する為の必要な条件をクリアし、現在迄に3名の利用者を見送る事が出来た。四十九日には、職員が利用者に対する思いを書いた手紙をまとめて届け、家族からは感謝されている。退所後も遊びに来てくれたり、運営推進会議に参加してくれたりしてくれる。町内に住む職員の紹介により、地域との関係は良好である。公園清掃や溝掃除の一員に加えてもらい、交流を深めている。毎年品評会に出展した大菊を何鉢か玄関に飾ってくれ、その後の手入れをしてきている。敬老会に招待されたり、秋祭りには子供神輿が立ち寄ってくれたりもする。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりの想いを大切に、触れ合いと交流のある暮らし」の理念を踏まえて、想いを尊重し家庭的な雰囲気の中で生活して頂き、ご家族、地域と触れ合いがもてるように職員一同が支援し実践に繋げている。	理念を名札に入れて常に持ち歩き、実践につなげている。職員は利用者に寄り添い、一人ひとりの思いの把握に努め、理念である「一人ひとりの想いを大切に、ふれあいと交流のある暮らし」を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人会のカラオケや夏祭りに参加。秋祭りに子供神輿が入り触れ合いがある。公園や溝掃除に住民として参加している。事業所主催の「夏の夕べ」はご利用者、ご家族、地域の方で80名の参加となる。	事業所が所在する町内に住んでいる職員からの紹介で、公園清掃や溝掃除の一員に加えてもらっている。地区の敬老会に招待してもらったり、子ども神輿が立ち寄りたり、地域との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について、早期発見の早期治療が大切な事又、認知症の対応の仕方の勉強会をしていると、ご自分が体験した事や、困難事例等の意見が出て「良い勉強になった」と話された。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で委員の方やご家族から、介護に対しての想いや自分の体験、望む生活等への意見が出る。地域の防災情報の提供や地域の行事の情報を頂き、地域との協力関係を強める機会となっている。	運営推進会議には、町内会から8名の参加があり、毎回案内文を直接届けている。関係性も出来上がり、毎回活発な意見交換がなされ、運営にも反映させている。認知症についての勉強会も行われ、参加者からは好評である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市との連絡は必要時のみであるが、納得できるまでの話し合いができています。運営推進会議に地域包括支援センターの方の出席で現状の報告や情報提供があり、交流を通じて事業所をよく把握してもらっている。	行政への提出書類は、直接持参し、担当者に事業所の実情や取り組みを伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	残念ながら玄関の開錠ができてない。帰宅願望の方でやむなく施錠しているが、見直しとして短時間の開錠を試みている。内部研修で何が拘束になるか、拘束をしない為にはどうすべきか話し合い理解を深めている。	「身体拘束」について研修会で勉強し、職員に周知している。玄関は施錠しているが、「どうやって開けるのかな」と言われれば、「外へ出掛けませんか」と連れて出ている。荷物を持って「自宅に帰る」と言われれば、納得するまで一緒に歩いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても内部研修で、身体以外に言葉や態度、待機等の例を挙げて話し合い、意識をもって日常のケアを行っている。日頃のご利用者の表情や身体的な異常の早期発見に留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方は居られないが、必要時は制度の利用を考えていき関係機関と連携を図っていきます。外部研修の機会には参加し、より理解を深めスムーズな活用としていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時説明では分かり難い事、不安に思う事は無いが納得の上での入居へと考えている。改定時は説明し同意を得ている。入院時の決め事や長期間ご利用の場合には経済面について話をする機会を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の来訪時は生活状況を伝え想いを聴いている。意見、要望等が遠慮なく話せる関係作りに努めている。苦情に対しては報告書を作成し職員間で情報を共有し改善に向け取り組んでいる。	家族からの意見や要望は真摯に受けとめ、対応している為、信頼につながっている。運営推進会議は、家族が気持ちを表す場となり、職員は思いを知る機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットでの毎月のミーティング時にはホームの現状や職員の想い、要望を意見として出し合い解決に向けて取り組んでいる。必要時には代表者に伝え相談し運営に反映している。	人間関係は良好で、何でも言い易い。毎月の職員会議以外でも、気がついた時はその都度管理者に伝え、運営に反映させている。代表者に対しても、往診時に直接話せる機会がある。	人間関係は良好であるが、なかなか求人に対する応募が無い。介護知識を引き継ぎ、利用者を大切に思う職員を育てる為にも、求人活動を諦めないで欲しい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己研鑽の為の資格習得や研修に向けての支援を行っている。職員の想いを聴く機会は積極的に持っている。働きやすくやりがいを感じ、向上心を持って働ける職場環境へと支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の行事計画を基に各月のテーマで内部研修をしている。外部研修後は復命し、情報を共有してサービスの向上に努めている。日々の介護場面で問題点、対応について話し合い認知症への理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には他法人からの同業者と相互に訪問し合い交流をもっている。日頃の仕事での困り事等を話して相談、意見交換をしてサービスの質の向上に反映したいと考える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前事業所からの情報を下に「どの様に過ごして頂くか」要望を聞きケアプランを作りサービス前には全職員が情報を把握している。ご利用者間との雰囲気作りに配慮し安心な居場所作りへと取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にホームを見学して頂き、環境、雰囲気、ご利用者、職員の様子を観て頂いている。ホームの特性、方針、月々の必要経費等を説明して、ご家族の要望、不安を遠慮なくゆっくり話し合いご理解を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人ご家族がどのようなサービス、生活を望まれているか又、性格、現状を踏まえ何が必要かを話し合い介護計画を立て説明し同意を得ている。その後ご利用者の全体の姿を把握し段階的に見直し検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と食事やお茶を一緒に頂きながら、テレビや新聞の話題で感動したり笑ったりしている。ご利用者の体調に合わせて日常の洗濯、掃除、食事作りの家事を出来る人出来る事を一緒にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「旬の物を母に食べさせたい」と新鮮な野菜や果物の持参がある。主治医の来訪時に合わせ話を聞いて頂く人もある。「夏の夕べ」で食事を一緒にして頂く機会もある。正月盆時の外出、外泊へのご理解もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、知人の来訪を歓迎し、来やすい雰囲気作りに努めている。夏冬の休学時には遠方から、ひ孫様の来訪で楽しい時間を過ごされる。又、年賀状をその人に合わせた支援で、ご利用者をご家族に出されている。	訪問者を明るく出迎え、来やすい雰囲気作りをしている。家族から「気持ちよく迎えてくれたので来やすかった」との声ももらっている。夏のイベントを企画し、家族が来訪するきっかけ作りをしている。夏休み期間中、遠方に住むひ孫が会いに来てくれる利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置は、その人の特性を考えて決めているが様子を見ながら変更もしている。隣の方がイスに座り易い様に直してあげられる状況もある。行事時には色々な方と触れ合いが持てる様に職員が支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中のお母様に頻回に会いに来られていた方が退居後も来訪があり、ご利用者と話を下さる。看取りケアをさせて頂いた方が「49日の法要が無事に終わりました」と来訪あり「又、寄せて下さい」と言うて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者とゆっくり話す機会を大切にしている。想いや望む事、困り事を「気づき帳」に記入し毎月の話し合いで意見を出して想いに応える様にしている。意思疎通の難しい方は生活歴を見直し成功例を伝えている。	職員は、時間の許す限り利用者の傍らに寄り添い、気持ちを汲み取りたいと思っている。「子どもが来ない」と寂しそうに言われれば、家族に連絡する。朝食を居室で食べたいと言われれば、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今の姿に至るまでをご利用者、ご家族、ケア関係者の情報を基に、ご本人の生活スタイルを尊重した支援としている。ご持参品も今までの馴染みの物をお願いし、安心して暮らして頂ける環境をと考えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの習慣、趣味から「何が楽しめ、何を得意とされるか」を把握し、持てる力が生活の中に出せる様にプランに反映して続けられる支援をしている。できた事を一緒に喜び自信に繋がる関わりを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を踏まえ、毎月のカンファレンスで「その人らしい暮らし方」を話し合いプランに反映し、ケアを統一させ心地よい生活へと支援している。何か問題や変化があればプランを見直し変更している。	毎月の内部研修では、全員のカンファレンスを行い、ケアプランに取り入れている。モニタリングを3ヶ月毎に行い、介護計画は6ヶ月毎に更新し、現状に即した支援内容となっている。介護記録にサービス内容を記載し、職員に周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のケア記録用紙には、その人のサービス内容の記入があり、職員は確認しながら計画に沿ったケアを行い記録している。又、日々の生活が感じ取られる記録の仕方をして、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況に合わせた支援に応じるには難しい面があるが、隣ユニットと協力し臨機応変に考える。時に職員のボランティアもある。急病時、精神混乱時、小旅行、余興等のニーズに応じる対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会、子供会、ホーム周辺の民家と交流があり話に来られる。催物の誘いでカラオケで歌ったり知人と談話の楽しい時間がある。地元のご利用者が散歩中に立ち話となり田畑で採れた物を頂く事もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前説明では、ご本人ご家族の意向で主治医は決まり、今迄の主治医の継続も可能です。協力機関の1ヶ所は24時間対応が可能です。状態変化時には随時にご家族へ報告、相談をし主治医と連携をしている。	入所時、家族に希望するかかりつけ医を確認し、決定している。重度化し看取り支援が必要になった場合は、24時間連携が取れる医療機関に変更してもらい、急変時の対応も迅速に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に看護師の配置があり、日々の情報を共有して健康管理は充実している。24時間の相談体制があり、状態の変化時又、必要時には来訪しての対応で医療機関との連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には今までの生活を含めた情報提供をしており、担当相談員と訪問日を調整して、治療の状況や退院時期等の相談をしている。職員が代わる代わるに見舞い笑顔を見せて下さり、状態把握ができています。1日も早い退院へと支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合、看取の指針の説明をし理解を得て同意を頂いている。状態に変化がある毎にご家族、主治医、ホーム側と話し合いを重ね、事業所のできる事、できない事、体制を説明して何事でも相談をしやすい関係作りを心掛けている。	入所時に、看取りの対応について説明し、同意書を得ている。重度化した場合は、医師に精神的・身体的にどのような状態に変化するかを段階的に説明してもらっている。本人と家族が納得のいく支援に努めている。医師による看取りの勉強会を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルと職員、地域の緊急連絡網は出来ている。内部研修時にマニュアルを基に急変時の判断、初期対応の学習をする機会がある。吸引器はすぐに使用できるようにしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練では色々な場面を想定して行い、推進委員様にも参加して頂き誘導や第三者としての意見も出る。地元の消防団員様との繋がりができている。災害発生時の最低限の飲食の備蓄品もある。	運営推進会議と同一日に避難訓練を行い、利用者の誘導を手伝ってもらい、避難経路を確認してもらっている。地域との協力関係は良好で、職員の連絡網に加え、地域の連絡網も作り、協力を依頼し、快く引き受けてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分がされたら嫌な事はしない」というケア、言葉かけで尊厳と権利を守る事を意識している。内部研修で人権、プライバシーの保護、守秘義務について具体的な例を出し話し合いをしている。	言葉掛けは親しみを込めて話しかけているが、言葉遣いは利用者が不快にならない様に気をつけている。サービス精神旺盛な利用者から「これしましょう」と言われれば、出来る所を手伝ってもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面での声掛け、関わりを意思決定ができるような言葉かけを意識して関わっている。想いや希望、願いを言いやすい関係の構築にも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の暮らしの基本はあるが、自室で過ごす人、フロアで過ごす人、TVを観る人等で、ご本人の過ごし方を優先して、その人のペースに合わせた暮らしとしている。急に散歩に出かけたい人に付き添う事も時々ある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常や外出時の服装はご本人の好みに合わせているが、調節を要す時には相談をしている。ご本人の拘りで常時、肩にバックを掛けておられる方、又上着のポケットに櫛を入れて思う時に整髪される方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食は旬の物で手作り料理である。食べたい物、誕生日メニューと対応して。食材の下準備を頼んだり、良い臭いを感じ楽しみに待たれる。外食は皆様にとても喜ばれている。食前に口腔体操、メニューを紹介する。	パン好きな利用者が多い為、週3回は朝食にパンを提供し喜ばれている。季節料理を提供し、四季を感じてもらっている。家族から野菜が届けられた日には、メニューを変更し、新鮮な野菜を皆で食す。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人の体調、病歴を考えた食事量、塩分、形態、トロミ等への対応の食事としている。摂食量が分かるように毎食事量を表に記入している。水分の取り難い人にはゼリーを作り対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアへ声を掛け見守る人、介助する人と口腔ケアは定着している。週に1回は歯科衛生士による口腔管理指導があり、月に2回は歯科医の訪問があり義歯の不都合で辛い思いをする方は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレは各3ヶ所あり、いつでも空いている所に入られる。各人の排泄状況の控えを基に、トイレへ声を掛け気持ちよく用が足せる支援に力をいれ取り組んでいる。排泄時の介助はプライバシーの保護に配慮している。	日中はトイレに誘導し、おしめを使用しない方針である。時間を決めてトイレ誘導を行い、便器に座ってもらい、「トイレに行けば排泄する」という感覚を思い出してもらいたいと考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便がある様に野菜の多いメニュー、起床時に牛乳の提供をしている。ラジオ体操、フロアでの歩行運動、散歩にと取り組んでいる。一日の水分量と排便の記録を基に必要時は主治医に相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度は入浴日が決まっているが、ご利用者の状況でずらす事も多い。入浴中に職員とゆったり話が弾む時も多い。冬場は寒い様に温めて嫌がられない様に気を付けている。又、ゆず風呂はとても喜ばれる。	「温泉に行こう」と入浴を誘っているが、嫌がる利用者には時間や曜日をずらして、対応している。「いい湯だな」と一緒に歌う等、着替えから入浴まで、お喋りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調、病歴に留意して昼食後の休息へ誘っている。安眠に繋がる様に日中のレクリエーション、軽作業、日光に当たる機会を作っている。就寝時間が少し遅くても自分の観たいTVは観てから眠られる方もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の薬ラックに一包ずつ名前、日時、用法の印字があり、服用までに3回は確認して誤薬を防いでいる。薬情報がすぐ見られる様に個人別の記録の前に入れてある。臨時薬は分かり易くマーカーがしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	持てる力、出来る事への参加(食材の下準備、盆拭き、洗濯物入れ、畳む、モップ掛け、菜園の収穫、ドリル)散歩、ドライブ、買い物支援、演劇観賞等の気分転換をしている。菜園を見て「こうした方がえ〜」と指導もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ホームの泰山木の下でお茶をしたり、周辺の散歩で空を見、風を感じ「気持ちえ〜」の言葉が出る。お花見では戸外で豪華な花見弁当を前に笑顔でビールを頂かれた。外出の機会を増やそうと職員の用事に、一緒に外出で助手席で話をゆっくりしている。	月に一度はドライブを兼ねて外食に出掛けている。利用者が以前よく通っていた寺へ、紫陽花を見に行った事もある。家族が初詣や外出に連れ出してくれる利用者もいる。気分転換に庭の花を見に行ったり、散歩に出掛けたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常時バックを肩に掛け財布を管理される方は居られる。支払い前にお金を渡し支払って貰い、お釣りを受け取られるのを見守り支援をしている。相手の方にお礼を言うこと等の社会との繋がりを大切に考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各個人で支援は違うが年賀状を出されている。受け取った年賀状でとても喜ばれる。帰宅願望が強い方が奥様と電話でゆっくり話をされ落ち着かれる人もある。事務所の電話でいつでも話をさせて頂く事が出来る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビングの柱、床は木肌を感じ落ち着く空間がある。壁に行事の写真や自分達で作った作品が飾ってあり通りすがりに観られる。少し離れた所で、窓の前に座り外を見て過ごせる場所は好まれる。庭や職員が持参した季節の花をご利用者が生けられる。	玄関を一步入ると、職員手製のグリーンピースのぬいぐるみが来訪者を出迎えてくれる。各所に山野草が飾られ、季節を感じる。居間には、利用者と一緒に作成した貼り絵の大作や、行事の様子を撮った写真を飾り、楽しい空間作りを心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所定の席の他にソファで気の合った人と過ごされる人、大きい窓の前で新聞、本を広げる人、ドリルをされる人、庭での外気浴ではその時々花や気候を感じ又、カラスの鳴き声を出してやり取りを楽しむ人もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は「ご利用者の馴染みの物のご持参を」と話している。お孫さんや家族の写真を置かれる人もある。木目込み手芸の完成品を飾られている人もある。小机に季節の花が途切れる事のない支援をしている。	使い慣れた家具や写真を持ち込んでもらい、家庭的な雰囲気にならなくても近づくよう工夫している。朝食中に部屋を換気したり、冬場は濡れタオルを置いたり等、感染予防をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を間違えられる人には、入り口に花等の飾り物を付けたり、名前を大きく分かり易くしている。動線に沿った手摺の設置で安全な移動へ支援をしている。ペットの配置はその人の身体機能を考えた位置にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200438		
法人名	医療法人六峯会		
事業所名	グリーンピースあま城 かがやき		
所在地	倉敷市藤戸町藤戸1406-1		
自己評価作成日	H28年7月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyouvoCd=3390200438-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景が残る環境にあり昔の思い出話がよく出る。職員はベテラン主婦が多く3食の手作り料理はお手の物であり、ホームの菜園の収穫や頂き物の旬の素材で好みに合わせたメニューに変更になる事もある。毎月のカンファレンスではその人に合った暮らしや楽しみを実現する為に意見を出しプランに反映している。ご家族、親戚の方が訪問し易い雰囲気作りにも努めている。看取りの要望があれば、医療機関と連携体制を取り条件を整えていきます。地域の活動に毎年参加させて頂き、より良い交流が出来ている。『夏のタベ』ではご家族、地域の方、職員が一緒に食事で親睦を深める機会もある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人ひとりの思いを大切に、今までと変わらない生活をして頂ける様、支援している。毎月の内部研修でも理念を再認識し利用者様の個性を尊重とした対応に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の地域の溝掃除と公園の掃除には参加させて頂いている。秋祭りには子供御輿がホームまで入って頂き触れ合いが出来ている。隣の施設では、花の苗や野菜の購入、又お互いに行事がある時は、駐車場の利用もさせて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で家族の方も交えて認知症の対応困難事例など話し合っ活発な意見交換が出来ている。又地域包括支援センターに相談したり、交流は出来ている。又他のグループホームからも参加して頂き交流が出来る様になった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度開催してサービス状況の報告、説明を行っている又参加者からの意見を頂いている。他の施設の方の参加で意見を頂き参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会には、地域包括支援センターの方に参加して頂いている。市からの研修も参加しており、解らない事は電話相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は拘束になるが残念ながら現在、帰宅願望の強い方がおられやむなく施錠している。見直しへの検討は行っている。又内部研修で身体拘束についても勉強をしている。外気浴などで外に職員がいる時は、玄関を開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても内部研修で話し合い意識を持って取り組み、日々の生活の中で利用者様の表情、身体的な異常の早期発見に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度については、代表者が本人の思いや家族からの相談など受けているが職員も今後研修の中で勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結は利用者や家族に十分説明を行い理解して頂き契約となる。不安、疑問点はいつでもお受けするよう説明している。改定等あった場合には説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2カ月に1度の運営推進会議での席やホームで行ういろいろなイベントに参加して頂きその中で意見要望などお受けし運営に反映させるようにしている。退所された家族の方にも出席して頂いている。最近では家族の方から活発な意見を頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の内部研修でテーマを決めてその勉強をしたり意見交換をして、より良い施設運営に努めている。インシデントの検討会議も必ずしている。その都度気が付いた事があればメモをして内部研修で話合う。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の声や勤務状況を評価し改善に向けて取り込んでいる。自己評価、自己目標の記入からやりがいのある職場へと、取り込んでいる。何か意見がある時には、施設長、管理者に相談している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を集めできるだけたくさんの人に研修を受けてもらい報告書を作成。そして介護技術や知識を身につけるよう他の職員にも指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者連絡協議会、地域医療センターとの交流で輪を広げサービスの質の向上へと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	前事業所のプランを頂き継続する様にして、御本人、御家族の要望を全職員が把握し関わる様になっている。又、入居前にホームの見学を勧め雰囲気や職員の様子も観て頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂き、環境、職員の様子を見て頂き、要望不安な点を聴きホームの方針を説明し、話し合い理解が得られる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャから情報を得て御本人、御家族の要望を聴き、どの様にしたいのか、しっかり話し合い 合意が得られる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ、野菜の皮むき、外の掃き掃除、草取り等を一緒にしている。食事やお茶の時間には、談話しながら楽しい時間になっている。今年もかがやきの畑で玉ねぎの収穫ができ皆様に皮剥きをしていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏まつり、外食など御家族が参加できる場を作り訪問しやすい場へと努めている。又、他の医療機関への受診にも同行の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所付き合いのあった方の訪問、姉妹、親子での、外出、電話での会話などの支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の特性を考えて話しやすい人、気が合いそうな人との席にしたり、コミュニケーションがスムーズになるよう、職員が間に入り楽しい時間が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後にも入院先へのお見舞い、又相談の電話も入っている。亡くなられた方の家族との交流もできている。運営推進会議にも出席して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	行きたい所、食べたい物、したい事、不安な事困っている事等を各自の思いを聴く時間を持つようにしている。又ご家族からも情報入手するように努め、職員間での情報の共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、ケアマネージャからの情報を基に職員間で事前に状態を把握しご利用者の生活スタイルを尊重したケアプランとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの習慣、生活歴、性格の情報を基に持てる力を生活の中に出せる様に声掛けをし、一緒にして思ったより出来たり、出来なかったりの状態の把握に努め、次のステップに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族の要望を基にカンファレンスで職員の気付きを出し合って介護計画に反映しケアが統一出来る様にしている。何か問題があれば、その都度話し合って対処する様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にサービス内容が記入しており、計画に基づいてのケアが出来ているが、モニタリングしやすい状態変化時にはサービス内容の変化を検討している。毎月の内部研修で必ず話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な要望に応じるには、体制的には難しい面があるが、他ユニットと協力して臨機応変にと考えている。時には職員がボランティアで要望に応じている。秋の小旅行はとても喜んで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りには自然を感じられる所がたくさんある。その人のペースに合わせて散歩、ドライブをして季節を感じて頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の説明はして家族に当施設でのかかりつけ医を決定して頂く。通院介助の同行と看護師の24時間対応で支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者全員の状態を把握し易い様に情報提供をしている。必要に応じて医療的処理や相談を受けてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には入院先へ訪問し、利用者に面会している。関係者に状態を尋ね、退院してからの介護プラン作成に役立っている。退院日については病院、家族に合わせて決定している。いつでも受け入れる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ターミナルケアについては文書を作成し方針の説明を行い同意をもらっている。体調の変化があた時は、必ず家族とDrに報告して今後の方針を話し合う支援をしている。看取りを希望される方も少しずつ増えているので看護師に指導を受けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応を看護師に指導を受けている。緊急連絡網も作成している。又内部研修でも勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に二回の避難訓練を行い一回は消防署の方に立ち会って頂き訓練して指導を仰いでいる。又推進委員会の方にも参加して頂き避難訓練をしている。地域の方の連絡網も作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場に立ってケアを実践することを大切に思い、個々の人格を尊重しプライバシーを守って対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の人に自己決定がし易い声掛けをするように努めており、本人の思い希望はどんな小さな事でも表現できるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の暮らしの基本はあるが、一人ひとり生活リズム・ペースに合わせ、ゆっくり過ごせるよう支援している。不安な様子な時は、ゆっくりとお話を、聞く時間を持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度はパジャマから洋服に更衣することから始まり、身だしなみを整え一日を過ごしていただく。又入浴・外出の時の洋服も一人ひとり、相談しながら選んで頂く支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べるということをとっても大切に考え、一人ひとりの好みなどを生かした食事づくりを利用者と一緒に行っている。又月に1～2回行っている外食は、利用者様の希望に沿って和食や中華などにしている。たくさん量であるが、間食される人が多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量食事形態は個々に合わせて調理している。毎日の献立は栄養士が立てたものを参考にバランスの良い食事作りを心掛けている。水分量は一日の摂取量の表を作り摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアへの誘導、自分でされる方への見守りを基本に毎週火曜日、歯科衛生士による口腔ケアを実施。月2回歯科医による歯の治療が行われおいしく食事が食べられる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け誘導、介助をしている。自立の方もトイレの時に自尊心を傷つけない様に、下着を見せて頂き汚染している時は、交換している。時には抵抗もあるが、少しの時間をおいて交換させて頂く。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れたメニュー作りをしたり一日の水分摂取表を作り十分な水分を摂って頂く。又冷たい牛乳の提供をする。適度の運動、散歩をする。必要時には、主治医と相談して薬剤でのコントロールを行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞き、自分のペースでゆったりと入浴できるように支援している。又入浴出来ない時には、清拭をして、更衣をしている。ソックスは毎日交換させて頂く。清拭出来ない時もあるので、下清拭だけでもする様にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を把握し、状態に応じて休息したり、生活リズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員として看護師の配量があり薬の管理はできている。職員も症状の変化、薬の必要があれば、必ず伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、シーツ交換を手伝って下さる人、野菜作りが得意な人、塗り絵が得意な人、色々な場面で中心になって頂き皆で楽しめる様に支援している。ゴミ箱を、広告ちらしで自分から折って下さり利用させて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、散歩、買い物など声掛けして実行している。季節の花も見に行っている。家族による外出の機会もある。又同一法人からのイベントへも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より預かっている子遣いから、欲しい物がある時は一緒に買い物に出かけている。自分で選んで決められる様に支援している。今は自分で現金を管理出来る方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に電話への支援をしている。ゆっくり話が、出来る環境へと配慮している。携帯電話を持って必要時に息子さんにかけて交流も続けてる。年賀状が書ける方は、通信出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分達で作った作品を居室やフロアに貼ったり、庭に咲いた花などを飾る。庭で収穫した野菜など話題にしたり、食材に使って料理を作り、季節感を取り入れる工夫をしている。時にはフラワーアレンジメントもして楽しんで、頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を決める時、話しの合いそうな人、あまり関わりを好まない人、など性格を十分考慮している。所定の席はある。他にソファでくつろいで頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使っていた馴染みの物を持ち込んでいただく様話しており、家族の方にも自由に考え、使っていただき居心地のよい部屋作りの工夫をしている。居室ごとに、壁紙、カーテンの柄が違えてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の入口には、氏名と、それぞれ、異なった花の絵がついて覚えやすくしている。壁側には、手すりがあり、安全に移動できる様になっている。又呼び出しコールとその人が使い易い物で「鈴」にしている人もある。		